

伝え合う喜びを味わう幼児の育成

～「幼・高交流活動」と伝え合いの姿～



名古屋市立春田幼稚園 園長 平手 咲子

〒454-0983 名古屋市中川区東春田二丁目 143 番地

TEL 052-301-3610 FAX 052-302-9519

URL <http://www.haruta-k.nagoya-c.ed.jp>

取組の概要

本園の学校努力目標は、「伝え合う喜びを味わう幼児の育成」です。

具体的には、「自分の思いを言葉で表して相手に伝えたり、相手の言葉に耳を傾けて気持ちや考えを感じ取ったりしながら、他者と心を通わせて生活する楽しさを味わっている姿」を目指しています。3歳児、4歳児、5歳児それぞれの育てたい姿をイメージし、園児の実態から教師の援助のポイントを共通理解して、必要な環境を考えながら実践に取り組んでいます。

(教師の援助：5歳児)

友達の言葉に耳を傾けることができるように橋渡しすることで一緒に遊ぶ友達の考えに気付いたり取り入れたりすることができるようにする。

自分たちで思いや考えを伝え合いながら遊びを進めていこうとしている場面を見守り、必要に応じて言葉を補ったり話を整理したりする。

◇◇しよう
いいね
どうやってやる?
こうするといんじゃない?

(教師の援助：4歳児)

だれでもいつでも思ったことや考えたことを言葉に表したくなる温かい雰囲気をつくり幼児と一緒に話すことで、友達とのつながりを感じられるようにする。

思いを出し合う場面に寄り添い、伝わらないもどかしさや伝わらぬうれしさなどの感情を十分に味わうことができるようにする。

□□ってことね
うん、いいよ
いやだ、△がいい

(教師の援助：3歳児)

幼児が表情や仕草、態度で表す思いを受け止める。

幼児の思いを言葉にして表すことで思いを表す言葉に出合えるようにする

幼児の発する言葉一つ一つに応じていくことで、教師と幼児・幼児同士のおしゃべりが楽しくなる雰囲気をつくる。

これ、やりたい
貸して
一緒だね
先生、見てて

自分の思いを出しながら、夢中になって遊ぶことができる環境の構成

＜教師の援助のポイントと育てたい姿のイメージ＞

本園の特色「幼・高交流活動」

平成12年から市立富田高等学校との交流活動が始まり、現在も年に2回行っています。生徒が来園して園児と一緒に弁当を食べた後、広い芝生の園庭でサッカーをしたり、保育室でままごとをしたりします。園児は、日頃関わることのない「高校生」に始めは緊張していますが、歩み寄ってくれる生徒に安心感をもつと、体ごと触れ合うことを楽しみます。何度も交流活動に参加している生徒もあり、事後アンケートには、幼稚園教諭を目指す思いが強くなったという記述も見られます。

今年度は、5歳児が富田高等学校の文化祭「鳳祭」を生徒の案内によって見学する交流会を計画・実施しました。

○ 幼稚園児との交流を通して、あなた自身が変わったことは何ですか。

保育士に2人1組の思いが言葉に伝わる。

○ 幼稚園児との交流を通して、あなた自身が変わったことは何ですか。

園児が何を何のために理解することが一番大事だと思えるようになった。同じ目標になって話をすることができた。

＜事後アンケート記述抜粋＞



取組の内容 ① 「幼・高交流活動 文化祭見学」の中の「伝え合い」(9月)



生徒「どうだった？何が楽しかった？」
 5歳児「…うん？楽しかった…」
 生徒「何が楽しかった？」
 5歳児「…」
 生徒「そうだ！プーさん、いた？」
 5歳児「プーさん、いたよ！」
 生徒「乗り物、乗った？」
 5歳児「うん、なんか、車みたいなのを
 お兄ちゃんが押してくれた」
 生徒「そっか。怖くなかった？」
 5歳児「大丈夫！だって、ゆっくりしてくれた。
 楽しかった。もう一回、やりたい」



「どうだった？何が楽しかった？」と尋ねられても、それを言葉で表現することは難しい5歳児。生徒が、園児の困り感を察して具体的に問い掛けてくれたことで、園児はどんどん体験を言葉で表し始めました。体験を話して思いに共感してもらううれしさを味わいました。



取組の内容 ② 日々の保育の中に見られる「伝え合い」(10月)

まんまる赤だねえ



まんまる赤だねえ

ふと目に留まったものに心が動いておしゃべりを始める3歳児

ハンバーガー屋さんってことね



お金がいっぱいないと買えません

いっぱいないとだめだって

遊びを進めるのに、友達とイメージを共通にしようとする4歳児

こっちのチーム、少ないよ

ぼくが替ろうか

そしたらこっちが少なくなるよ

じゃあ、こっちに来て

これでいいね、オッケーオッケー



リレーを楽しく始めるために、運動会での経験を生かして人数を合わせようとする5歳児

3歳児は、一緒にいて心地よい友達と同じ言葉を同じリズムで話すことを楽しむように、4歳児は、自分の思いを言葉で表すとともに相手の話も聞きながら遊ぶように、5歳児は、気の合う友達だけでなく大勢の友達が集まった中で、自分の考えを言葉に表して伝えながら遊ぶようになってきました。

取組のまとめ

(※1) 幼稚園教育要領平成29年3月 参照

幼児が伝え合う喜びを味わうには、“話したい”“聞きたい”という思いが必要です。そこで、幼児が様々なものやこと、人に出あい、心を動かし関わりながら“楽しい、面白い”“もっとこうしてみよう”などと、感じたり思いを巡らしたりすることができるように努めてきました。文化祭見学は、まさに園児のものやこととの出あいを豊かにし、高校生という“話したい”“聞いてもらってうれしい”人との関わりを生み出しました。今年度は、本園の努力目標の視点で幼・高交流活動を振り返りましたが、今後は幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿(※1)の視点からも実践を振り返り、幼・高に互恵性のある交流活動を続けていきたいと思います。